

和歌山病院での実習を終えて



堀内 充

今回、呼吸器内科の実習の一環で2日間、和歌山病院で勉強させていただきました。

県内唯一の結核病棟をもつ病院ということで、陰圧室の気流のコントロールや N95 マスクの装着方法、結核の基本的な病態や感染様式、結核患者への対応等を、座学だけでなく実際に臨床の現場で、勉強できたので有意義でした。

また南方院長の講義では、胸部レントゲンの基本的な見方を教えていただきました。セミナーの入り方が、何が胸部レントゲン画像を読み取りにくくしているのか、何に皆が苦手意識を持っているか、という問いかけから始まり、疑問点の洗い出しと解決というシンプルな図式を提示してくださり、導入から非常にわかりやすかったです。なぜそのような画像が得られるか、なぜそうなるのかという原点から、論理的に教えていただいたので、読影の考え方を理解することができました。考え方は教わったので、あとは自分でしっかりと勉強することが大切だと感じました。

夜には、南方院長にお食事に連れて行っていただきました。先生の経験談や、御坊に纏わるお話を聞かせていただき、とても面白かったです。また、5年間2週間に一度、学生をこうしてお食事に連れて行ってくださっていると聞きし、ただ講義室や病棟で教えるだけではなく、学生にも興味を持ちしっかりとコミュニケーションをとって下さる姿に感動しました。

2日間と非常に短い期間ではありましたが、内容は非常に充実しており、とても有意義な時間を過ごすことができました。

最後になりますが、お忙しい所我々を温かく迎えてくださった、南方院長、駿田副院長をはじめ、病院の職員の皆様方に、改めて感謝申し上げます。